

第 2 部

地域づくり団体へのハンズオン支援
ケーススタディ



第1章 テーマ別支援ケーススタディ

本章では、ハンズオン支援の根幹を成す「人・チームに対する支援」「プロジェクトに対する支援」「ネットワークに対する支援」のそれぞれについて、本事業での支援事例を紐解きながら解説します。

第1節 人・チームに対する支援

本節では、「人・チームに対する支援」について、本事業での支援事例を基に詳細を解説します。

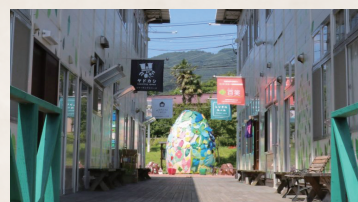
● 構成員が主体的に取り組める組織体制・役割分担の設計

団体名	(一社) たまご村 (2021年度支援対象団体)
プロジェクト名	「共に叶える、暮らし方。働き方。」をコンセプトにした新しい商店街の基盤構築事業
地域	岩手県陸前高田市

背景・地域課題 陸前高田市は東日本大震災による津波で甚大な被害を受けた。復興に向け、高上げや公共施設等のハード復旧は進んでいるが、少子高齢化と人口減少により過疎化が加速度的に進行している。地域の持続・発展に向けて所属や分野を超えた連携が必要であり、たまご村はそのための場として仮設商店街の運営を行っている。しかし、代表者への業務集中や新型コロナウイルス感染症の影響による売上減少により、持続的な運営に向けて課題を抱えていた。

「人・チームに対する支援」の概要 事実上機能していなかった理事会を巻き込んで中長期計画を策定し、以降も持続的に協議の場が持たれるように会議体を設置した。

事務局の役割や権限を明確にすることで、構成員の主体者意識を醸成し、代表者への業務集中を軽減できるようにした。



たまご村の全景

● 地域づくりを進める上での知見・スキルの習得

団体名	(一社) Switch (2020年度支援対象団体)
プロジェクト名	「持続可能な関係人口創出プロジェクト」
地域	福島県田村市

背景・地域課題 2018年に地域の20～30代有志が中心となって立ち上がった団体。関係人口創出に向け、田村市テレワークセンター「テラス石森」の運営や行政・地域と連携した各種取組を実施していた。団体の人員体制の制約から、地域内の他のプレイヤーとのネットワーク・協力体制を拡大させることを目指していた。

「人・チームに対する支援」の概要 関係人口拡大の先進事例視察として、気仙沼市や陸前高田市への訪問をコーディネート。課題やノウハウに対する学びを深め、団体メンバーの思考の質を向上させることができた。



気仙沼市での視察の様子



● 新たな担い手の確保

団体名	(一社) SAVE TAKATA (※1) (2017年度支援対象団体)
プロジェクト名	「りくぜんたかた次世代応援団立ち上げプロジェクト」
地域	岩手県陸前高田市

背景・地域課題 陸前高田市では人口減少が進んでいるが、その背景には若年層の人口流出がある。10代後半～20代前半の8割が進学・就職などを機に地元を離れ、そのまま多くが地元に戻らない。地域の子どもたち(特に中高生)は、地域のプレイヤーと関わる機会が少なく、地域に残って多様な生き方ができることを認識できていなかった。

【人・チームに対する支援】の概要 多様な職業・背景を持つ大人たちのチーム(次世代応援団)の体制強化に向け、ミッション・ビジョン・バリュー等のすり合わせを実施。構成員が主体的に取り組む雰囲気が醸成され、活動が活性化。新たな担い手である中学生をより広く巻き込めるようになった。



中学生団体FACEによる市内発表会

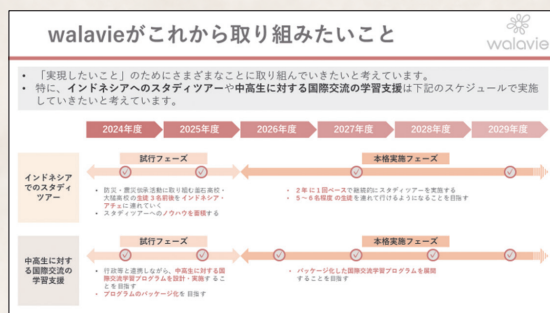
● 現状の振り返りと共有ビジョンの形成

団体名	(一社) walavie (2023年度支援対象団体)
プロジェクト名	「海外・途上国へ向けた若年層の自発的な防災・伝承活動を推進するスキームづくり」
地域	岩手県釜石市、大槌町

背景・地域課題 釜石市、大槌町では、東日本大震災から10年以上が経過し、地元の高校生が主に国際関係の分野において外部の大人と関わりを持ち、多様な生き方に触れる機会が減少傾向にあった。こうした現状に問題意識を持つメンバーが集まり、2022年にwalavieを設立。

防災・震災伝承を主たる事業軸として、高校生が海外・途上国との交流機会を提供するためのスキームを構想していたが、中長期的な運営方針を十分に検討することができずにいた。

【人・チームに対する支援】の概要 団体メンバーと協議を重ね、団体としての取組方針を策定。策定する過程で、メンバーの問題意識や想いを改めてすり合わせ、団体として取り組むべき方針を見出すことができた。



取組方針の説明資料

※1 現:(一社)トナリノ。第2章第1節も参照。



第2節 プロジェクトに対する支援

本節では、「プロジェクトに対する支援」について、本事業での支援事例を基に詳細を解説します。

● 戦略的・計画的な事業の推進

団体名	(一社) 筆甫地区振興連絡協議会(※2) (2017年度支援対象団体)
プロジェクト名	地域住民の暮らしを支えるプロジェクトの構築と移住受入再開を通じた地域リスタートプロジェクト
地域	宮城県丸森町

背景・地域課題 筆甫地区は丸森町内8地区で最も少子高齢化・過疎化が進んでいる地域である。生活拠点となる施設が徐々に地域から失われる中で、地域が自立して持続するための体制づくりが急務となっていた。

「プロジェクトに対する支援」の概要 地域での新規店舗開設に向け、地域内での合意形成や資金調達、人材確保(地域おこし協力隊等)を計画的に推進。実際に店舗(ひっぽのお店ふでいち)をオープンさせることができた。当該店舗は2024年11月現在も営業中。



「ひっぽのお店ふでいち」の外観

● 多様な手段での財源確保

団体名	(一財) みらい創造財団朝日のあたる家 (2023年度支援対象団体)
プロジェクト名	被災地の未来を創造するためのファンドレイジング基盤の構築プロジェクト
地域	岩手県陸前高田市

背景・地域課題 (一財) みらい創造財団朝日のあたる家は、人手を欲する農業者と安定した就労機会を求める障害者のマッチング(=農福連携)に長年取り組んでいた。この取組は無償で実施しており、財源は助成金などに依存していたため、助成金終了後も持続的に取組を実施できるようなファンドレイジング基盤の整備が求められていた。

「プロジェクトに対する支援」の概要 寄付募集の位置づけを整理し、戦略設計と関係者との合意形成を実施。具体的な寄付受付フローの整理や、行政を巻き込んだ寄付スキームの構築のための調整、ネットワークづくりに取り組んだ。



市議向け意見交換会の様子



● 積極的・効果的な情報発信

団体名	(一社) 雄勝花物語 (※3) (2018年度支援対象団体)
プロジェクト名	雄勝花物語による低平地利活用及び交流人口拡大プロジェクト
地域	宮城県石巻市

背景・地域課題 石巻市雄勝町は震災によって中心部が壊滅し、大きな人口減少に直面していた。そのような中、(一社) 雄勝花物語は災害危険区域に指定された低平地で「雄勝ローズファクトリーガーデン」を運営し、交流人口の拡大による雄勝町の再生を目指していた。

目標の達成に向け、団体の取組内容や想いを外部に発信する必要があった。

「プロジェクトに対する支援」の概要 動画を作成し、団体の取組を発信。2019年3月時点で約1万回再生され、動画の視聴をきっかけに雄勝花物語のことを知った地域外のプレイヤーと連携したイベントを実施することになるなど、団体の取組を広く周知することができた。



動画内で発信したメッセージ

- ※2 第2章第4節も参照。
- ※3 第2章第5節も参照。



第3節 ネットワークに対する支援

本節では、「ネットワークに対する支援」について、本事業での支援事例を基に詳細を解説します。

● 地域内外の多様な主体の巻き込み

団体名	(一社)日本カーシェアリング協会(※4) (2018、2021年度支援対象団体)
プロジェクト名	災害時に車の支援を行う連携構築事業(モビリティ・レジリエンス・アライアンス)
地域	宮城県石巻市

背景・地域課題 東日本大震災で多くの車が被災し、生活再建や地域の復旧・復興に支障を期待したことを踏まえ、(一社)日本カーシェアリング協会では寄付車で車を集めて無償で車を届ける支援活動を実施していた。

活動を続ける中で、災害時のみならず平時から自治体や企業・団体との連携体制を整えることが、迅速かつ大規模な支援を実施するために不可欠だと考え、ネットワーク構築の方針を模索していた。

「ネットワークに対する支援」の概要 連携ネットワークのスキームを検討し、営業資料を作成のうえ実際に営業活動を支援。

この際に発足したネットワーク「モビリティ・レジリエンス・アライアンス」は、支援終了時点で8企業・団体と4自治体が加盟するに至った。(2024年11月現在、46企業・団体と18自治体が加盟中)



モビリティ・レジリエンス・アライアンス発足記者会見(2021年7月28日)の様子

● 関係人口とのつながりづくり

団体名	(一社)パイオニズム (2019年度支援対象団体)
プロジェクト名	小高パイオニアヴィレッジプロジェクト
地域	福島県南相馬市

背景・地域課題 南相馬市小高区は、東日本大震災の原子力災害により、住民は避難を余儀なくされ長く無人の街であった。2016年に避難指示が解除されてからも、帰還した住民は一部にとどまり、地域のコミュニティ形成に課題を抱えていた。

そのような中、(一社)パイオニズムは「地域内から多様な事業が創出される風土を醸成する」ことを目指し、拠点施設「小高パイオニアヴィレッジ」で各種事業を展開していた。

「ネットワークに対する支援」の概要 スタッフの想いに伴走し、「小高パイオニアヴィレッジ」でのコミュニティで実施する企画立案を支援。

スタッフの主体性が高まったことで、拠点を訪れる関係人口との交流が活発化し、コミュニティメンバーとスタッフが共に企画したイベントが企画・実施されるに至った。



イベント(給食会)の様子



● 地域づくりのプレイヤーとの交流・新たな取組の創出

団体名 (一社) レッドカーペット・プロジェクト (2020年度支援対象団体)

プロジェクト名 陸前高田市の嵩上げ地における椿を活用したインキュベーションエリア創出プロジェクト

地域 岩手県陸前高田市

背景・地域課題 津波により壊滅的な被害を受けた陸前高田市の市街地エリアでは、広範囲にわたって嵩上げが実施されている。(一社) レッドカーペット・プロジェクトはこの嵩上げ地のうち約2.6haにわたる土地を市から借り受け、大規模な椿畑を作って運営していた。

個人のボランティアベースで実施していた植樹活動を拡大するにあたって、地域内協力者とのネットワークを形成し、現場の実行体制を強化することが求められていた。

「ネットワークに対する支援」の概要 地域内のプレイヤー((一社)トナリノ)との連携関係を強化するため、支援体制に(一社)トナリノを加えて支援を実施。支援終了後も続くネットワークを構築することができた。このほか、陸前高田市との連携協力協定締結や地域内の法人からの支援獲得など、この年のハンズオン支援を通して様々なネットワーク構築を実現している。



第1回植樹会の様子

※4 第2章第2節も参照。

